

# 三人娘 でっす

Fate/hollow ataraxia 三人娘+二人!!?本

恋愛漫画家  
For adult only

キャスターは腐っていた。  
遠坂凛へのちょっとした嫌がらせが、  
思わぬ方向に向かっているからだ。

士郎に対して、「求められたら誰でも  
抱かなければならない」呪いをかけた。  
同時に、周りの女たちにも「士郎を  
求めてしまう」呪いをかけた。

そうする事で、凛は苦悩するだろうし、  
士郎やセイバーたちも、自分の事を  
意識せざるを得ない…はずだった。

なのに、凛も士郎も、他の皆も  
その状況をあっさりを受け入れてしまった。  
今や士郎は、範囲をどんどんと広げて  
やりチン坊やになってしまっている。  
しかも邪気がない分タチが悪い。

まあキャスター自身も士郎と  
楽しんだ事はあったのだが  
それだけでは腹の虫が  
おさまらない。

「…ちょっともう一遊び  
してあげようかしら」



台所に水を汲みに来た。  
「やっほーただいま〜」  
タイガが帰ってきたようだ。

「おかえりなさいタイガ」  
「あーその略好はもうお楽しみタイム中？」  
タイガに対しては特に隠す必要がないので  
私は全裸だった。

「ええ、今アヤコが私の部屋で休んでいます」  
「…あー、とうとう食べられちゃったんだ」  
タイガとアヤコは、部の顧問と元部長という  
普通よりは関係が深いためか、複雑なようだ。

「士郎に初めてをもらってもらいました」  
「そっか〜ちょっと見たかった気もするけど」  
「ビデオには撮りました」  
「Good Job よ！」  
親指を立てるタイガ、明るくて楽しい人だ。

「ま、私が言うのもなんだけど…優しくして  
あげてね、私にとっては可愛い生徒だから」  
「ええ、もちろんです」

私の答えを聞いて、満面の笑みを浮かべる。  
この人が学校で人気だと言う理由が分かる  
素敵な笑顔だった。





奥まで…  
入ったよ



分かった  
そのまま  
来てくれ…



ああ…  
分かるよ

そうか…  
これが  
「女」な「ム」の  
感覚か…



よもや衛宮と  
こうなるなんてな…  
不思議な感じだ

そうだな  
…辛くない?

そりゃ  
痛いさ

でも…  
悪くない感覚だ



くっ…  
流石に指とは  
比べ物にならない…

でも  
十分濡れてるし  
中の状態は  
悪くないと思う





な……っ！

うっ！

そっ  
それ  
反則……

これが膣内射精  
なのか……

この感覚は  
かなり……  
いいかもしれん  
癖になりそうだ……

何か  
入ってくる……  
お腹の奥の方に  
入り込んでくる……



はー

いや……  
続けて  
してもらった方が  
後々楽だ

大丈夫か  
氷室  
ちよつと休むか？

はー

今度はもっと  
落ち着いて  
あの感覚を  
味わいたい  
からな……



「衛宮…ゆっくり動いてくれ」  
「こんな感じ？」  
「ああそうだ…中の襞をじっくり  
擦りながら動くのがよく分かる」  
「でもたまにこう…」  
「あっ！ズンって奥突くのは…  
反則…あっ！ あっ！」  
「緩急織り交ぜてすると予測が  
できないだろ」  
「馬鹿者…馬鹿……っ！！」

鐘ちゃんは衛宮くんがいいように  
攻められてる。  
経験の差は、未経験な私が見ても  
ハッキリと分かる。  
普段は攻めの鐘ちゃんが、男の子に  
攻められて気持ち良くされてるのは  
とてもエッチだ。

鐘ちゃんてさえ、あんなに感じさせ  
られてしまうのなら、私なんか…

「羨ましそうね、蒔寺さん」  
「なっ、う、羨ましいって…」  
「だって氷室さん、とつても気持ち  
良さそうじゃない」  
「そ、それは…うん」  
「ここ…濡く濡れてるわね」  
「あっ…ちよつと、遠坂…」  
「氷室さんとは、してるんでしょ？  
私にもさせてほしいな…楓」  
「やだ、名前で…呼ぶなよ」  
「指…一本じゃ全然足りないわね  
二本で掻き混ぜてあげる」  
「あ…ウソ…遠坂の指で…中…」  
「他人行儀ね、折角だし名前で  
呼んでほしいな」  
「り…凜…凜……して…ほしい」  
「うん、可愛いわね、楓って」

すごい…遠坂さんって、あんなに  
Sな人だったんだ…似合うけど。

「氷室、出すぞ！」  
と、衛宮くんが鐘ちゃんの中に  
射精してる。  
鐘ちゃんは嬉しそうにそれを  
受け入れてる。



「衛宮くん」

私は、思い切って声を掛けた。  
ずっと考えてて、今日ここに来る  
事になって、決心した事を伝える。

「あのね、私の事、抱いてほしい」

「…え…抱くって……」

「エッチしてほしいの、私も」

意外そうな顔をする衛宮くん。  
みんなも同じように驚いてる。

「ほ…本気なの三枝さん？」

「私が言うのも何だが…早まらない  
方がいいぞ由紀香」

「はんたーい！ 私は絶対に反対！」

何となく予想してたけど、みんなは  
私の初めてを、私以上に大事に  
思っていてくれたみたい。

でも。

「ずっと前からそうだったけど…  
こういう事になったあの日から、  
衛宮くんの事をよく見るように  
なって、思ったんだ」

「俺？」

「みんなのために一生懸命になって  
頑張ってる衛宮くん…なにが  
してあげたいなって」

「いやまあ、趣味みたいなもんだし」

「それでもね、そうしたいって  
いうのが素直な私の気持ちなの」

「三枝…」

「あとね、私だってエッチだもん…  
みんなと同じように、気持ちいい事  
してみたいの」

正直な気持ちを伝える。

みんなにも私の決意が伝わったのが  
衛宮くんの答えをじっと待ってる。

「三枝が望むなら、俺は異存ないよ」

優しい笑顔を浮かべながら。

彼は私の手を取り、答えてくれた。







言うな時の字  
由紀香は  
決めたんだ  
リラックスだぞ

衛宮なんかには  
やるのは  
やっぱ  
惜しいぜ

とっても  
可愛いわ  
三枝さん

うん...  
ありがとう  
遠坂さん  
鐘ちゃん

衛宮くんは  
失礼だよ



ん...  
恥ずかしいな  
やっぱ



よろしく  
お願いします  
...士郎くん

ごめんね  
わがまま言って

そんな事ない  
仲良くなれて  
嬉しいよ

三枝...  
いや



由紀香...

んっ...

名前で...  
呼ばれちゃった

男の子と  
キス...  
しちゃった...



本当に可愛いわ  
三枝さん…  
由紀香…

あ…名前で…

仲良くなった  
記念に  
いっぱい  
感じさせてあげる

遠坂さ…  
キス…上手

ああ…舌が  
すごいよ…

由紀っちは  
おっぱいも  
癒し系だよな

吸っ  
ついたり  
舐めたり  
舐めたり  
たりしちゃう

はあ…  
舐め方とか  
エッチすぎるよ  
時ちゃん…

由紀香の  
性感帯は  
誰よりも  
知ってるからな

うん…  
自分でするより  
鐘ちゃんに  
してもらう方が  
気持ちいいの

たっぷり感じさせて  
破瓜に備えておこう

たっぷり…  
感じさせて  
ほしいよ

ほら…  
由紀香の好きな  
やり方だ

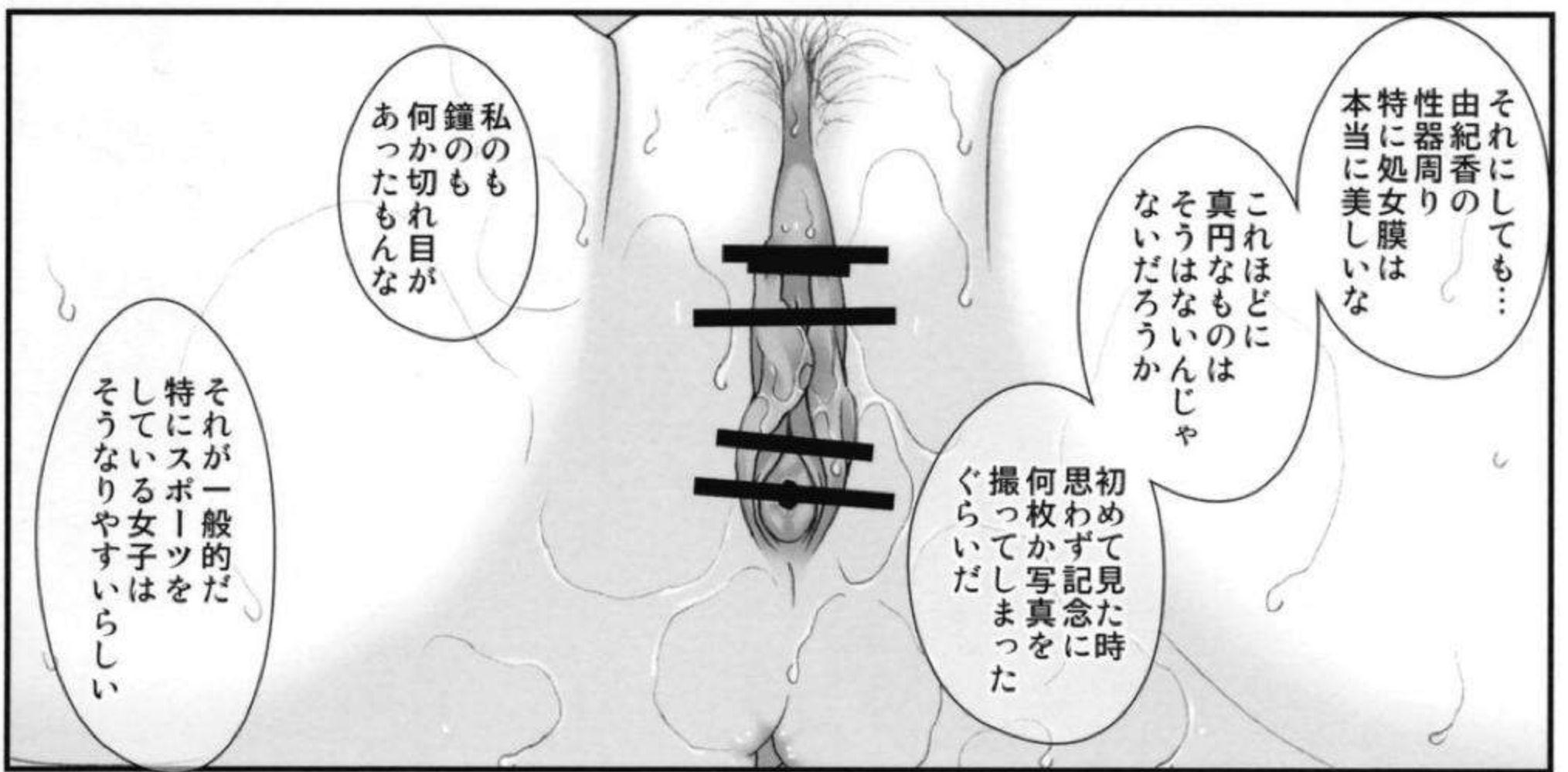
あつ!  
そうなの  
それ…好き…

一度  
イかせておこうか

うん…ん…  
いつもより  
昂びてるから

あ…  
あ…

…軽く  
イっちゃった…





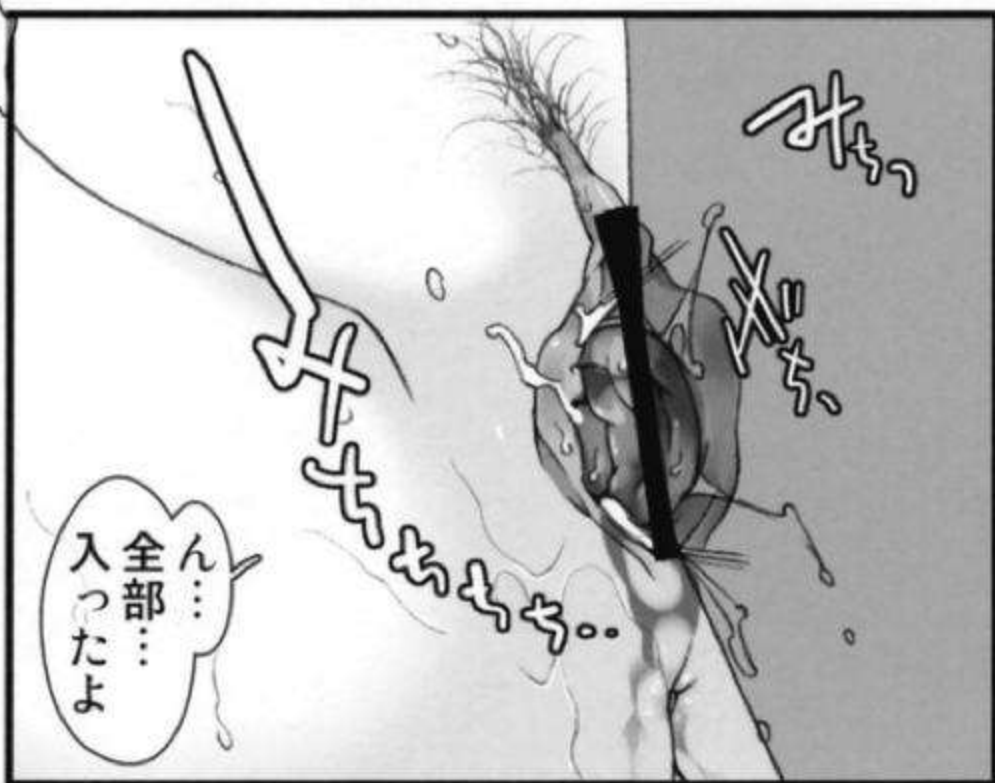
ここのなに  
痛いの!?



ごめん  
由紀香:  
しばらく  
我慢してくれ



ああ:  
うああつ:  
うわ:  
奥まで:  
来ちゃった



ん:  
全部:  
入ったよ



でも:  
全部:  
入っちゃったら  
分かんなく  
なっちゃった  
みたい

うう:  
人生の中で  
一番痛かった:  
は

う:  
しばらく:  
そのまま:  
は

落ち着くまで  
しばらく  
このままに  
してるから:  
は

あ:  
うあ:  
は

入り口の  
辺りかな:  
ズキズキ  
してる:  
は

痛みで  
ビクッて  
しちゃった:  
は

衛宮くんが  
中にいるの  
すごく  
よく分かる:  
は



かなり力が  
入ってたけど  
大丈夫？

はー  
はー  
入る時は…  
すごく  
痛かったけど

だんだん  
落ち着いてきた  
みたい…



これから  
一緒に  
遊ぼうぜ

まあ  
由紀っちの  
選んだ道だ  
認めるよ



おめでとう  
由紀香

今後は  
もっと  
色々  
出来るな



いっぱい  
頑張ったね  
三枝さん…  
ううん  
由紀香

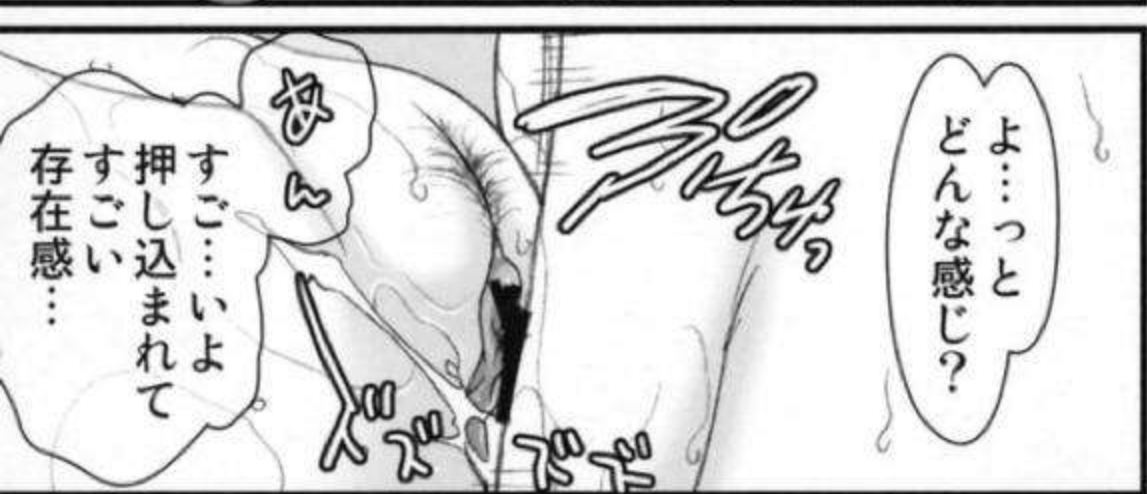
これから  
よろしくね



うん…  
ありがとう！

えへへ…  
やっぱり  
友達っていいな…

みんな  
大好き！





由紀香  
ちよっと  
慣れてきたか？

身体の方が  
段々  
抜けてきた

うん…  
受け入れ方  
少しずつ  
分かって  
きたかも

あ

はー  
はー



抱きしめて  
密着しながら  
するのは？

あ…  
私これ  
すごく好きかも

あ

士郎くん  
丸ごと  
包み込まれてる  
みたいで

言葉がなくても  
「好きだよ」って  
言われてる  
みたいで

心も身体も  
ドキドキ  
しちゃう…



だったら  
色々  
試してみようか

これは  
遠坂が好きなの  
やり方だけど

あ…  
背中を  
抱かれながら  
されるのが  
好きなんだ…

エスコート  
されてるみたいで  
素敵かも…

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ







すごい！  
おんどん！  
お腹の中  
いつぱいこ  
注がれてるの  
分かる…

ありがとうな  
由紀香

…うん♡



くっ…  
由紀香の中  
気持ちいいから  
まだ出るよ…

うん…  
たくさん  
気持ち良くなって  
いつぱい  
中で出して…

射精を中で  
受け入れるのって  
何だか嬉しい…

「こらこら～とんでもない不純異性交遊の現場だな」  
突然部屋に入り込んで来たのは、俺たちの教師だった。

「ふ…藤村先生……」  
固まる陸上部の三人娘たち。  
「まさか…こんな事になってるとはねえ」  
大げさに頭を抱えて、ため息をついたりしてる。

そんな藤ねえに、軽く拳骨をくれてやる  
「やり過ぎだろ、三枝さんが本気で怖がってる」  
血の気が引いてしまった様子の彼女を、遠坂が抱き寄せる。  
氷室も蒔寺も、流石にハツが悪そうだ。

「ゴメンゴメン、本気で脅かすつもりはなかったんだけど」  
軽くおどけた後で  
「でも…自分たちのしてる事、ちゃんと分かってる？」  
真剣な、学校の教師としての問い。

「もちろん、色々と承知の上での行為です」  
氷室が代表して答える。  
他の二人も、藤ねえの視線での問いに頷く。

「…そつが、うん、よく分かったわ」  
3人の答えに納得し、笑顔を見せる藤ねえ。  
三人もホッと胸をなで下ろした。

と、突然服を脱ぎだす藤ねえ。  
「それじゃ、今度は士郎にじっくり尋問しなきゃね～」  
め、目が笑ってない…これはちょっとマズイかも。

「覚悟しなさい！」

## 後書き

久々のFate本です。  
ホロウやりながら  
「やっぱ皆可愛いわ」と  
ニヤニヤしながら  
作りました。

次は全員参加型なのかな？  
全く毛色が変わるのかな？  
キャストの前振りには？

考えてると唐く楽しい！  
頑張ります。



発行 恋愛漫画家  
発行者 鳴瀬ひろふみ  
発行日 2007 12 31  
印刷所 Power Print  
連絡先 hironasu@mudbigobene.jp  
HP <http://www.renai-manga.com/>

# 三人娘 でっくす

Fate/hollow ataraxia 三人娘+二人!!?本

